

井戸端だより

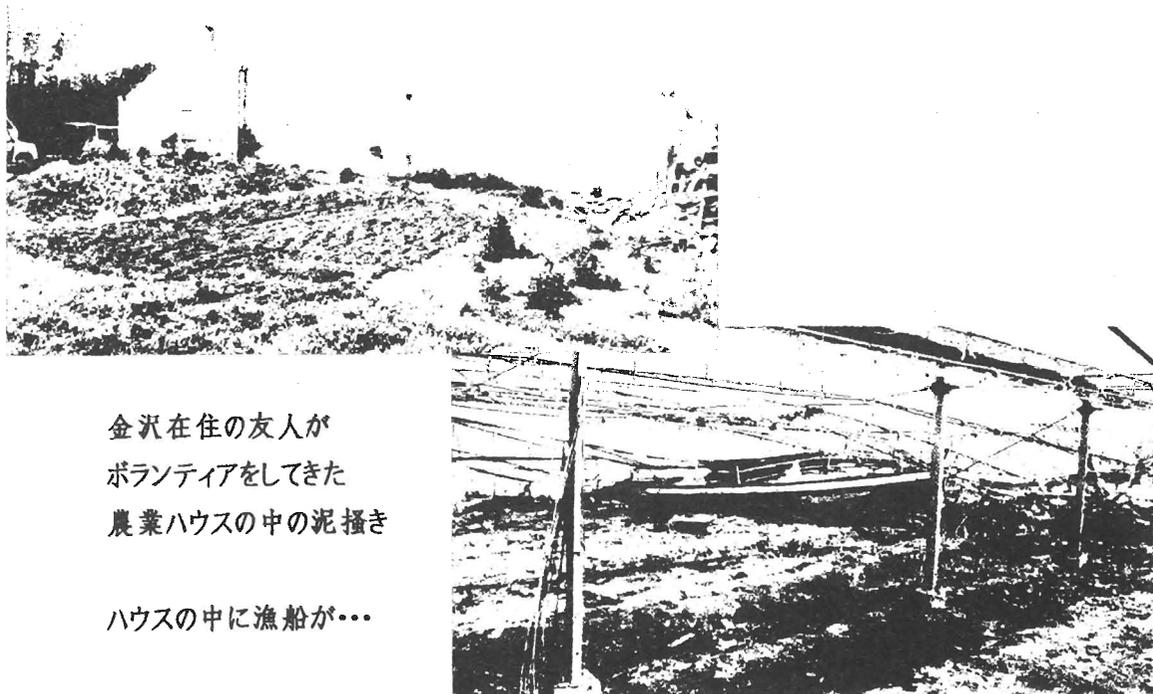
第75号

発行日：2011年9月28日

発行：くらしの学習会

もくじ

7月例会報告	1
7～8月の活動 「蝶のくる庭」パネル展	2
9月例会報告	3
早朝サイクリング ～かすみの森公園へ～	6
市議会を傍聴して	7
震災地ボランティア ～農業ハウスの泥の除去～	8
行ってみたアメリカ西海岸	9
睡眠	13
幸 ですか	15
雑感	16
愛媛新聞掲載 室戸は「大地の公園」 お知らせ	19



金沢在住の友人が
ボランティアをしてきた
農業ハウスの中の泥掻き

ハウスの中に漁船が...

7月例会報告

7月6日(水) 13:00～ 林宅 5名参加

- ・「蝶のくる庭」のパネル展の今後について
夏休み期間中に中央図書館に展示させて貰い、子ども達に観て欲しい。
- ・国交省へウマノスズクサの生育地(重信川の土手の自生地)を何とか保護出来ないか等のお願いに行こう。
国交省の担当者は、異動するので、常に言い続けることが必要になる。

7月13日(水) 13:30～

- ・国交省松山河川国道事務所重信川出張所訪問 5名参加
西岡所長さん、原田技術係長さん、職員1名計3名が応対して下さいました。

ウマノスズクサの保護地について意見を交換し前向きな対応が得られた。

くらしの学習会側

- ・最近ウマノスズクサの生育地が少なくなり、ジャコウアゲハが減ってきている。
- ・かすみの森近辺の土手の草刈り時に、少し加減して群生地を残して貰いたい。
- ・くらしの学習会の会員の住宅周辺で、ウマノスズクサを育てジャコウアゲハを保護したこと、その様子をパネルにし、東温市内2か所で展示をしたことを話し「蝶のくる庭」づくりの楽しさをもアピールした。

国交省側

- ・ウマノスズクサの生育地の保護については前任者から申し送りがあった。
- ・出張所のフェンスにウマノスズクサを育てているが、ジャコウアゲハは飛んでこない。
- ・ウマノスズクサの群生地を保護地にするのであれば、いつでも協力する。

とても好意的で真摯な対応をして下さった。

後日、会員がジャコウアゲハの幼虫を出張所に持っていった。

帰りに中央図書館に寄る。

展示の許可が下りたので、その場所を見せていただく。

2階の子どもコーナーとアダルトコーナーの壁面を使って展示させていただけることになった。

展示は 7月20日(水)午後4時～

片づけは 8月15日(水)午後5時～ に決定。

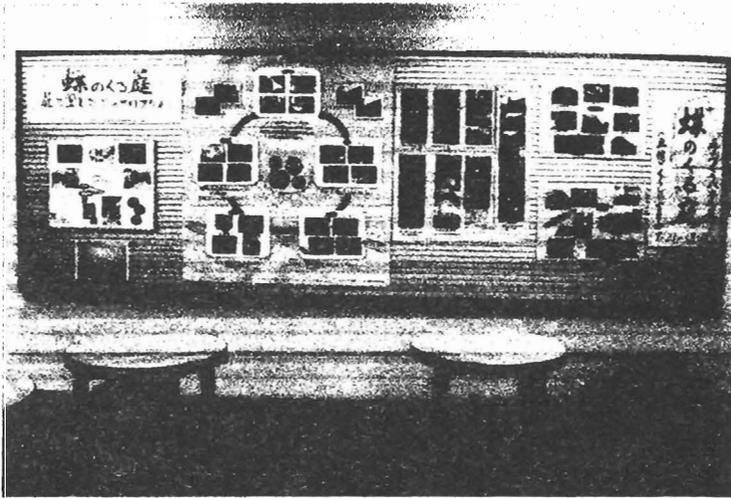
(S. K)

「蝶のくる庭」パネル展

とき：7月21（木）～8月15（月） ところ：中央図書館2階

パネル展は中央公民館・川内公民館に続いて3度目
今回は、多くの子ども達に見て貰いたいと夏休み期間中に
図書館の子どもコーナーに展示させていただいた。

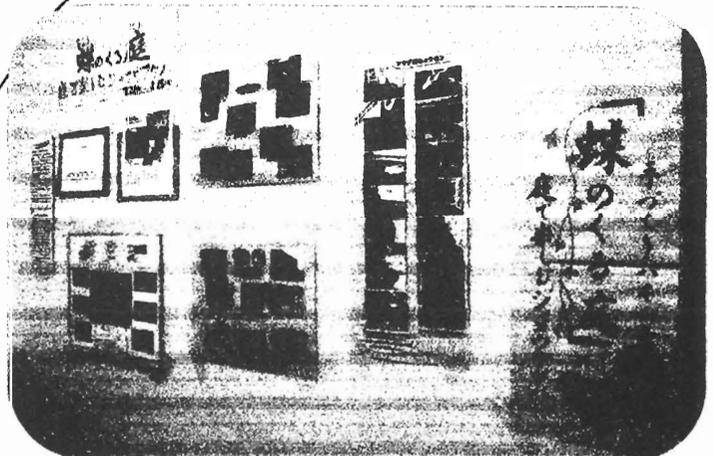
説明文も子ども向けに易しく書きなおした。



大勢の子ども達が
見ていた
好評だった
～図書館職員より～

身近な所に
科学の目を向けることで
暮らしが豊かになる
と気付かせて貰った。
今まで芙蓉の花ばかり
大事にしていたが、
葉っぱにつく毛虫が
蝶々になるなら、
毛虫も見守ろうかと
ふと思った。

～電話で感想が届く～



台風一過とてもさわやかな空気に包まれたこの日、私は気持ちよさに誘われたのと運動不足解消のため自転車で出発。稲刈り間近の田圃道をシオカラトンボや多数のアカトンボ？(赤茶色・太めの胴体・キラキラと羽を光らせ落ち着きのない動作で稲穂の上を群れ飛んでいる。東南アジアから移動して来るアカトンボもどきが増えているとの話を以前耳にしたことがあったのでこの種かも知れませんが)と共に気持ちのよい約20分のサイクリングを楽しみながら林さん宅に到着。

以前庭に移植したウマノスズクサの成長を見学。「葉っぱがこれだけ育った状態ならジャコウアゲハの幼虫を放しても大丈夫！」と S.Kさんが幼虫を取りに自宅にとんぼ返り。その間、ウマノスズクサが絡んでいるロウバイの木にTさんが種を見つけ、私は寒い時期「森の交流センター」へ香り高く咲く花を楽しみに出かけますが種は初めて目にしました。林さん宅の庭の奥深さに「さすが樹木の専門家の庭」と再認識しました。幼虫2匹とサナギ1匹を携えてs.kさんが戻りウマノスズクサに放ってからお宅の中へ。

「蝶の来る庭」のパネル展の今後については、3会場(中央公民館・川内公民館・図書館)開催し、新たに開催場所の候補が挙げればその時点で話し合う事になりました。

台風一過さわやかな空気に誘われてと書いたのですが、皆さんもご承知の様に台風12号紀伊半島豪雨の被害は甚大でした。愛媛県内でも、西条・東温両市の山間部で土砂崩れや河川の増水によって道路や橋が寸断され約200人の住民が孤立。住民が孤立した東温市山之内蔭地地区は学習会のメンバーのMさんの住居よりも下流にあり、上流のMさん宅は大丈夫かと心配をしていたのですが、例会に参加してくれ無事が分かり安心しました。

放射性物質で汚染された瓦礫の処理について(えっこNEWS2011.7月号廃棄物問題愛媛ネットワーク事務局 渡部伸二氏)の記事を読み合わせ、賛否両論それぞれの考えを話し合いました。特に子供達や妊婦の方に関しては放射性物質の影響を受けない対処が最優先との考えには皆賛同。

夏休み中、アメリカへ出かけた林さんの話しを写真や絵葉書を見ながら聞く。ご実家の両親・弟夫妻と林家のご長男も合流した温泉宴会の写真から、ご家族の仲良さ感が伝わり楽しそうな皆さんの笑顔に話題が広がりました。

9月は会報発行月なので原稿メ切9/25 s.kさんまで。印刷9/28川内公民館10時から。10月例会は、10/12 何処か遠出を予定、9/28候補地を持寄る。

夕刻までおしゃべりのネタは尽きる事なく続きお開きに。しばらく振りの皆さんとお喋りに刺激を受け楽しい時間でした。外に出て、先程ウマノスズクサに放したジャコウアゲハの幼虫の様子を見てみると、ムシャムシャと懸命にウマノスズクサを食べていました。「お味はいかが？」土壌が変わると味も変わるのでしょうか？無事成虫になりこの庭から飛び立つ姿が見られる日が楽しみです。（A. M）

【「震災がれき処理」に関して、愛媛新聞掲載の9月議会質疑記事】

<東温市>（13日・定例）渡部伸二、山内孝二両氏は、東日本大地震で発生したがれきの東温市内の処理可能量が、一部報道で示されていることを指摘。がれき受入れについて考え方をたじた。高須賀功市長は、放射性物質による汚染を念頭に「国からの明確な安全基準や監視体制がはっきり示されていないので、5日に知事を通して（国に）処理基準の策定を陳情した。現在まで受入れの要請はなく、要請が来ても絶対安全という保証がない限り受け入れない」と答えた。

また、市長は安全性の担保について「県の専門的担当課と連絡や調整を行う。まだ正確な情報を発信できない段階であり、具体的な（市民への）説明が不十分なことは否めない。県の助言を得ながら慎重に対応したい」とした

<西条市>（12日・定例）高橋章哲氏は、東日本大震災で発生したがれきの焼却処分をめぐり、西条市が受入れ候補地に上がっていると一部報道された経緯について質問した。理事者は4月に環境省から処分場の余剰処理能力の調査を受けた際「生ごみ、豊、家具類で1日最大40トンの余剰処理能力があると回答した」とした上で「現地で直接がれきを見て、到底、西条市では受入

れは無理だと感じた。8月にがれき処理に関する特別措置法が成立しており、国がどう対応するのか注目したい」と答えた。

<内子町> (22日・定例) 才野俊夫氏は、東日本大震災で発生した廃棄物の処理受入れについて質問。理事者は4月の環境省の受入れ可能量調査に対し1週間当たり10トと回答したが「予備調査との認識」と説明。稲本隆寿町長は「放射能に汚染されたがれきは除染によって安全だと言える事が、受入れの大前提になる」と述べた。

<愛媛県議会> (20日・定例) 村上 要氏は、

①東日本大震災で発生したがれき処理への対応は？

上甲俊史県民環境部長は、環境省によると、がれきの量は約2300万ト。国は迅速に処理するため、全国規模での広域処理体制の構築が必要だとしている。

(県内での) がれきの受入れには放射性物質による汚染を危惧する声もあり、国の責任で県民の安全安心が担保される事が大前提だ。国の動向を注視しながら、県内市町を含む関係機関と連携して対応したい。

②県内の動きは？

上甲部長は、環境省が4月に行った調査で受け入れ可能量を報告した自治体などのうち2市、1事務組合、2民間業者が名前の公表を認めた。ただ、受入れを表明したものではない。松山市は9月市議会で放射性物質の汚染がないことを前提に協力する旨を表明している。

③県民の不安にどう対応するのか？

上甲部長は、放射性物質に汚染された恐れがあるがれきの処理を受入れ側の県民が懸念することは極めて当然。安全基準や取扱に関する明確な指針の設定など、国に責任ある対応を求めている。

早朝サイクリング ～かすみの森公園へ～

9月12日 朝6時前 自転車を走らせた。目的地はかすみの森公園。

新居浜の友人夫婦が「ジャコウアゲハの飛んでいる様子を写真に撮りたい」と言ってきた。2～3日後に来ることになっている。我が家の周辺には7月半ばから飛んでいるものの、その時ひょっとしていなかったらかすみの森公園へ案内しようかと思ひ下見に行った。

早朝の少し肌寒い空気を全身に受けながら、緩やかな坂道を突っ走る。日の出を拝み、道路に映る超スリムな自分の影を楽しみながら、刈り取り間近い田んぼを抜ける。高速道路の側道では、ランニング中の若者を追い抜き重信川の堤防へ。若い夫婦がテニスを楽しむ傍らの公衆トイレでは老人が水を流し掃除をしている。深々と頭を下げて通り過ぎ、やがて上村大橋にさしかかる。川の中には幾筋かの水の流れるがある。橋の中央に自転車を止め360度見渡しながらかす呼吸をする。

家から30分程で目的地に着く。7/2と7/29に、様子を見に行った時にはまわりの草はあまり茂っておらず、20cmほどに成長したウマノズクサを発見した。卵とまだ生まれて間もない幼虫を、我が家で育てようと貰って来た。

ところが、今はその場所は夏草が茂り、つる草がはびこっていてウマノズクサは全然見当たらない。我が家のウマノズクサは、いま枯れてしまって茎だけが残っているのだから、ここもそうなのかと思ひながら、せめての姿でもとしばらく留まっていたが会えなかった。土手には犬のフンがあちこちにあり、いやな思いになる。道路の反対側、以前くらしの学習会がウマノズクサを移植した場所へ移動する。あっ！ 見つけた！ ジャコウアゲハ。一頭だけだったが一瞬姿を見せ、すぐ草の中に消えて行った。来た甲斐があった！！

帰り路、片手薬師に寄ってみた。毎月12日は野菜市が立つ。ありったけの小銭で新鮮野菜を買った。おまけに懐かしい友人にも会った。「お彼岸が近いから掃除がてら野菜を買いに来たのよ」と。

緩やかな登り坂、力を込めてこぐ。気持ちのいい汗がながれた。

~~~~~

9月14日13時過ぎ 予定通りご夫婦が見えた。ご主人はカメラが趣味。バタフライガーデンと自称している団地の数か所を案内した。数種類の蝶を撮影して満足し帰られた。「蝶のくる庭」の本も買って下さった。

今年は団地内8か所にウマノズクサを育てて貰っている。たくさん幼虫が育っているのに食草が枯れ、育ちが悪いと「ごはん食べさせてね」と近所へ連れて行く。団地育ちのジャコウアゲハが乱舞する姿を心待ちにしている。

(S. K)

## 市議会を傍聴して

気になる事があり、久しぶりに議会傍聴に行った。事前に議会事務局に電話して原発関連の質問があるか尋ねると、「9月13日に『震災がれきについて』9時30分より渡部議員が1番目に一般質問されます。」との返答でした。

相変らず傍聴席は狭く、先に来た人が入口近く座っているので、奥へ座るには全員立ってもらわねば進めない。それに引きかえ議場は議員数が減ったので広々としている。

さて、9時30分、9月議会における一般質問が始まった。

渡部議員による発言要旨は

- (一) 震災がれきの東温市への持込みについて
- (二) 放射能汚染のない食材による学校・保育園給食について
- (三) 高性能の放射線測定器による食品検査について

正確を期すために、愛媛新聞に掲載された記事を抜粋する。

≪渡部・山内両氏は、東日本大震災で発生したがれきの東温市内での処理可能量が報道で示されていることを指摘。がれき受け入れについて考えをただした。市長は「放射性物質による汚染を念頭に、国から明確な安全基準や監視体制がはっきり示されていないので、5日に知事を通して（国に）処理基準の策定を陳情した。現在まで受け入れの要請はなく、要請が来ても絶対安全という保証がない限り受け入れない」と答えた。また、市長は安全性の担保について「県の専門的担当課と連絡や調整を行う。まだ、正確な情報を発信できない段階であり、具体的な（市民への）説明が不十分なことは否めない。県の助言を得ながら慎重に対応したい」とした。≫

一番大事な子ども達の健康に関わる質問（二）「放射能汚染のない食材による学校・保育園給食について」と（三）「高性能の放射線測定機による食品検査について」については、新聞は一切報じなかったが、行政は、「東温市独自の放射線測定は考えていない」と答弁した。議員は実によく勉強され適確な情報のもとに質問されていた。行政は、「国・県の助言のもとに対応する」とし、前向きな姿勢は感じられなかった。

さて、前回（6月）議会でも9月議会と同じような要旨の質問がされている。「学校給食の放射線量のサンプル検査を行うべきと考えるかどうか」の質問に対し、給食センター長は、「厚生省は飲食物摂取制限に関する指標を暫定規制値として通達しており、これを守る限りそれほど敏感に対応する必要はないと考える」と答弁している。基準値をこえた牛肉が給食に使用されたというのに、9月議会でも何ら前進していない。

放射性物質が子どもに与える影響は、大人に比べ10倍、胎児では100倍と言われている。子ども達の命に関する問題で、遅きに失したではすまされない。東温市独自の放射線測定を考えていないのなら、給食だけでも地元産の食材を使うようにJA・農家・行政が連携して、放射線障害から子ども達を守るべきだろう。地元産なら、食材の産地を厳しくチェックする必要もないし、安心・安全も確保され、農家も子どものため、孫のため頑張り、その結果経済的にもうるおうことになる。今の子ども達が、10年、20年後に苦しむことのないように、できる限りのことをして健康を守ることが、世界に類のない大変な負の遺産を残した私達の責務だと思う。そして、同じ轍を踏まないように、原子炉を廃絶して、少しでもきれいな地球を次世代に渡さなければならぬと痛感した。

平成 23.9.16 記

(S・M)

## 震災地ボランティア ～農業ハウスの泥の除去～

金沢市在住の山男の同級生から震災地ボランティア体験談が届きました。(表紙説明)

6/29日～7/2日までの4日間、石巻JAの委託で農業ハウスの再生ボランティア「農業ハウスの泥の除去」をしてきました。冷酷な「地震と津波」の現実をしっかりこの目と体で確認して帰りました。

泥掻きの現場は石巻市の仙台方面への隣町「東松島市大曲」の農業ハウスの復興のお手伝いでした。海岸から2kmくらい離れたところですが、ここで4日間泥の搬出を行いました。連日の晴天で外の温度も30℃を越えていますが、ハウスの中は40℃を越えています。20分間仕事をして10分休憩を繰り返して9時から15時まで水分補給しながらやりました。この間の作業はスコップと一輪車のみです。最初の二日間は近傍のJAから派遣された人達と一緒にでしたが、後の二日間は我々山の仲間4人だけの仕事になりました。何とか、このハウスの泥の排出は完了させることができました。

ハウスの横には母屋も残っており私の頭の高さまで塩水が来たようです。誠に残酷なのは、この家は7人家族で住んでいたとのことですが、座敷のカーテンが開いており、ここに新しい遺影と祭壇があり5人が祭られておりました。お婆ちゃん、奥さん(40歳前後?)、孫娘三人です(小学生～園児?)。爺ちゃんと父親はハウスと電柱に登って助かったとのこと。亡くなった5人は避難所に避難していて被災したそうです。ここの二階に逃げていれば明らかに助かったと思うのですが、無情なものです。

9/26から一週間、お山の仲間と石巻に二回目のボランティアに行ってきます。

## 行ってみたアメリカ西海岸

8月6・7日にアメリカオレゴン州ポートランドで開催の国際シンポジウムに参加するかどうか、ずっと決めかねていた。というのも、いつも一緒に行っている仲間が、健康上の理由で行けなくなったので、行くなれば海外一人旅を決断しなければならなかったからである。ある日、ふと3年前教え子のお母さんからいただいた「もし、西海岸にいらっしゃることがあったら、ぜひご連絡ください。大きなうちなので、泊っていただくこともできます」という内容のメールを思い出した。教え子はサンフランシスコで医者として働き、そのお母さんはサクラメントに住んでいらっしゃるので、学会参加+教え子とそのお母さんに会う旅ができたら・・・・・・・・そんな思いが強くなり、教え子にメールを出したのである。

返事は、「6月末にロサンゼルスに引っ越します。先生、ロサンゼルスに来ませんか。」というものだった。サンフランシスコとロサンゼルス・・・・地図で見ると、かなり離れている。お母さんにお会いできないかも。でも、やはり何とかこの機会に教え子に会っておきたい・・・・学会の後の時期の飛行機の予約がとれず、結局学会の前にロス行きを設定して、何とか羽田発ロス行き直行便の最後の一席を押さえることができた。その旨連絡をしたところ、何と彼のお母さんもロスまで出てきてくださるとのことで感激した。

8月2日夕方の便で松山空港を出て羽田へ、その夜の12時過ぎの飛行機にのり、現地時間2日夕方7時ごろロス国際空港で、迎えに来てくれていた二人に会うことができた。その夜は彼のアパートに招待され、お母さんの手作り料理（彼のリクエストで冷やし中華）をいただいた。実は、お母さんは日本人、彼はアメリカ人とのハーフだが、8年前の来日時、日本語がほとんど話せなかった。愛大医学部英語教師として1年日本に滞在し、その間私が日本語を教えたが、帰国時にはかなり話せるようになっていた。自分の息子と同年で誕生日も近いこと、彼と記憶に残る色々なことを話したこと、お母さんもうちにに来てくださって、親しくお話ししたことなどで、とくに強く印象に残っている教え子の一人だった。4月末に結婚したばかりで、奥さんは、やはり医者、しかも日系人（4世）だが、彼女は全く日本語が話せない。結婚祝いとして、彼女に宇和島の真珠のネックレス、彼に真珠のピン、お母さんに真珠のブローチをプレゼントした。大変喜んでもらったので、悩んで選んだかいがあった。

次の日の朝、親子でホテルまで迎えに来てくれた。現在彼は、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）医学部のフェローシップ（医者で研究者）なので、まず、UCLAの構内を案内してくれた。広い構内、図書館もかなり充実している。大学のマークに使われている熊の像の前で記念撮影。大学ショップで面白いキーホ

ルダーをお土産に買った。逆の噴水（水が吸い込まれる）、転々と置いてあるおもしろいモニュメント・・・アメリカには毎回学会で来ているので、色々な大学を訪れているが、どの大学も広々として、本当にうらやましく思う。しかし、逆に構内が広すぎて、移動が大変だとも思う。日常的にたくさん歩くので、健康にはいいのかもしれないが。

彼をこの日の仕事先の病院に送り、替ったお母さんの運転で、大富豪ゲティが1997年に開館したロスで一番人気のゲティセンターへ行った。質の高い美術品のコレクションの数々が無料で見られる。車で来た人は駐車料金15ドルを払ってトラムに乗って行く。小高い山の上にある、建物と庭園が混然一体となったこのセンターからの眺めは素晴らしいが、ロサンゼルス街がかすんで見える。お母さんの話では、車の排気ガスによるものだということだった。モネ・ルノワール・セザンヌ・ミレー・ゴッホなどの絵画の充実ぶりがうれしかった。

その日は、夕方仕事の終わった二人と4人で、サンタモニカの海岸のレストランで食事をし、そのあと、海岸を散歩し、夜の街をぶらついた。何種類でも好みのトッピングをのせてくれるオーダーメイドのアイスクリームがおいしかった。

3日目は、ホテルのチェックアウトをすませたところへ、お母さんが車で迎えに来てくださった。お母さんもロスは不案内なので、私が簡易ナビを見ながら、口で案内したが、迷いながらの珍道中だった。高級ブティック街のロデオドライブでは何かを買うでもなく、その雰囲気を楽しんだ。それから、ハリウッドへ。アカデミー賞の授与式があるコダックシアターの前を通り、ハリウッド映画の試写会が行われるチャイニーズシアターへ。この劇場の前には、有名な俳優たちの手型足型とサイン入りの石板が並んでいる。場所が狭くてこれ以上増やせないためか、歩道に多くのスターの名前入り星型パネルが並んでいる。ハリウッドと書いた小高い山を背景に写真を撮ってもらった。高級住宅街のビバリーヒルズの文字を背景にここでも写真を撮った。

帰り、日本食の大型スーパーに寄った。売っているものは、すべて日本食・食材で、日本人以外の人もたくさん買い物に来ている。その晩は、日本から留学している方も招待して、一緒にお食事をするため、手巻きずしの材料などの買い物に付き合った。アパートに戻って、お母さんと話しながら一緒に料理を作った。日本からの留学生は、熊本出身、鹿児島ラサール高校、東大医学部を出て新宿の病院勤めをしていた超エリートのお医者さんで、お茶の伊藤園の奨学金で留学しているそうだ。彼と同年なので、親近感がわいた。英語と日本語が飛び交い、実に楽しい最後の夜だった。お母さんのお陰で、私はほとんど日本語だけで充実したロス滞在ができた。

た。思い切って来てよかったと思った。しかし、最終日に悲しい話を聞いた。東日本大震災の二日前に、ご主人を亡くされたとのこと。年の離れたご主人だったと記憶していたので、ひょっとしてと思っていたが、急だったようだ。92歳だったそうだが、息子さんの結婚式に出られなかったのが心残りだったことだろう。

最後の日は空港近くのホテルで一泊し、次の日は、早朝の飛行機でロスからシアトル経由でポートランドに移動した。シアトル空港でポートランド行きの飛行機に乗り換える時間が30分しかなく、おまけにシアトル着が遅れたので、ヒヤヒヤしたが、下りてすぐ隣の搭乗口からの出発だったので助かった。ポートランド行きの飛行機は20人乗りぐらいの小さい飛行機だった。

ポートランド空港からは、マックスという公共交通機関を利用してダウンタウンまで行った。ポートランドは街の中心に無料ゾーンがあって、この区間はどれだけ電車に乗っても無料。消費税もない。地図を片手に、迷うことなく電車を乗り継ぎ、トランクをゴロゴロ引いて、ポートランド大学のホテルに無事到着。5日の午後2時半ごろ着いたので、チェックインを済ませ、すぐ散歩に出た。ウォーターフロントまで電車で行って、ずっと歩いた。そのまま、川のほとりのレストランで、いい景色を眺めながら一人で夕飯をとった。年配のウェイターがとても親切で感じのいいレストランだった。

6日からは学会。朝ご飯をホテルのレストランでとり、ホテルのフロントに行ったら、学会関係の知り合いに会ったので、一緒に5分ほど歩いてオレゴン州立ポートランド大学の会場へ。会場には、別のホテルに宿泊していて朝食の付いていない人のために、朝食が準備されていたが、東海岸と違いこちらは甘い菓子パンが朝食に出る事が多い。それにコーヒー。これでは、とても朝食とは思えない。私の泊っているレストランは、甘くないパンや、ベーコン、ソーセージ、卵もバイキングで選べたので、助かった。

2日間の学会の話は、割愛して、学会の次の日、同じホテルに泊まっていた仲間の先生と市内観光をした。無料の電車を利用して、また、ウォーターフロントの方に行ってみた。川沿いの公園には、大きい水鳥が集まってきていた。カナディアンダックだ。そこから歩いて、街の中心まで行き、待ち合わせをしていた先生ご夫妻と一緒にいる。市場が立っていて、そこで買ったというブルーベリーを奥さんにいただいたが、とてもおいしかった。一緒に、世界で一番大きい本屋パウエル・ブックスストアへ行く。そこで、お土産をいくつか買う。それから、旧市街のウォーターフロントの近くで、昼食をとる。先生ご夫妻はその日の夕方の飛行機で帰られるというので、そこで別れ、私達二人は、ワシントンガーデンへ。日本菫園が素晴らし

いとは聞いていたが、ここに来てまで日本庭園を見なくても思ったが、見てよかった。素晴らしかった。菖蒲の池、竜安寺のような庭、滝のある池、どれも本格的で、大規模だった。また、ガイドさんの説明がとても丁寧で、素晴らしかった。来ていた人は私達を除き、すべて外国人だったが、日本に来なくても詳しく説明を聞き、これだけ本格的な日本文化に触れたら、それも意味があることだと思った。運悪く、小さい蜂に刺されてしまった。出口付近だったので、その旨係の人に言ったら、すぐ処置してくれた。痛み止めの飲み薬までくれたが、飲む必要はなかった。庭園だけに、こんなことになる見学者も案外いるのかもしれないと思った。

ポートランドは、薔薇と、形が富士山によく似た山が有名だ。Mt.Hood と言って、その山と満月の構図の絵ハガキをよく見る。本当にきれいな姿の山だ。

こじんまりとした街だが、ナイキの本社があったり、スポーツ用品のチャンピオンの本社があったりするので、消費税がなくても、街の中心の交通費が無料でも財政的にやっていけるのかもしれない。

元来親日家が多い地域だそうが、最近、中国資本がどんどん入ってきて、例えば、オレゴン州の大学では、お金のない日本語科は縮小または廃止、寄付の多い中国語科はどんどん拡充されているという。

晩ごはんは、初日一人で行ったレストランへ再び行ってみた。量が多いことが分かっていたので、二人で一人分頼んで分けて食べる事にした。ちょうどいい量だった。二人でお酒を飲みながら、今後の日本語教育について語り合った。彼女は東京の日本語学校の副校長で、今や日本語教育界の重鎮であるが、主婦として、子育てをしっかりとした後、日本語教育に身を投じて今の素晴らしい活躍に至ったのである。尊敬する一人である。

かくして、アメリカ最後の夜はふけ、次の日は早朝5時半には、ポートランド空港に行き、サンフランシスコ経由で成田に帰ってきた。羽田に移動し、空港でヒラさんに10分だけ会って話し、彼女の手作りカレーをもらって松山行きの飛行機に乗り込んだ。

あっという間の1週間だったが、団体ツアーとは違った、自分だけの中身の濃い旅が出来たような気がする。帰国後、彼からメールが来た。彼女がパールのネックレスをととても気に入り、さっそく友達の結婚式にして行ったと書かれていた。

(T・H)

## 睡眠

3年前、日中にも係わらず、頭がぼーとした感じが続き、病院で検査を受けた。検査の結果で気になるのは高血圧だけで、他にはデータの的には異常がなかった。頭がぼーとするのは、血圧が高いからで、高血圧には症状がありませんと言う話は違っていると思っていた。数ヶ月間は、薬の量を調節し、その後は、最低量で安定することがわかり、ここ2年は、これくらいの薬なら仕方がないか年だしなあと、薬の服用にも疑問を持たないで、一カ月に一度の通院で自分の健康は確保できていると思っていた。頭がぼーとする事も気にならなくなってきた。

半年前、夫が「昨日の夜、呼吸が止まったよ」と言った。もちろん、夫のではない。私のである。自己認識はない。以前から、睡眠時無呼吸という言葉は知っていたので、夫の恐ろしかったという言葉に、どうにかしなければと色々考えている時に、ある病院の外来の広告が目にとまった。睡眠外来という診療科があった。

早速、予約を取る電話をしたが、初診は一ヶ月後。診察時、以前の東温スタディーのデータを見せると、簡易型の睡眠時の呼吸データがCなので、一泊しての検査を受けた方が良いということになった。検査は夜7時ころに行って、機械を着けて一泊するだけの簡単なものだが、機械の多さや色々な備品の煩わしさと、とても快眠を期待できるものではないと思いながら夜を過ごした。こんな検査できちんとしたデータが出るのだろうか。

一カ月後の検査結果を待った。全く眠れていないと思っていたが、数時間の睡眠のデータが出ていた。結果は最悪で、1時間に32回の無呼吸に近い状態。近いというのは、データの的には無呼吸ではなく少しは呼吸ができていたということだったが、これでは、全く、睡眠が取れていない状態なので、日中の生活レベルが悪いでしょうと言うお話だった。脳が全く休めていない状態が続いているらしい。のどに脂肪がついている事が原因、ということは、体重オーバーが基での悪循環になっていることが理解できた。以前から食事後や日中、時々眠くなるのは、睡眠が取れていないことが原因ということだ。三年前から、血圧のお薬を服用していること、薬の量は最低量であることなどを伝えると、もしかすると、痩せる事や良い睡眠がとれると、薬がいらなくなるかもしれませんよという診断が出た。そして、睡眠時に空気を送る機械をつけて寝ることになった。

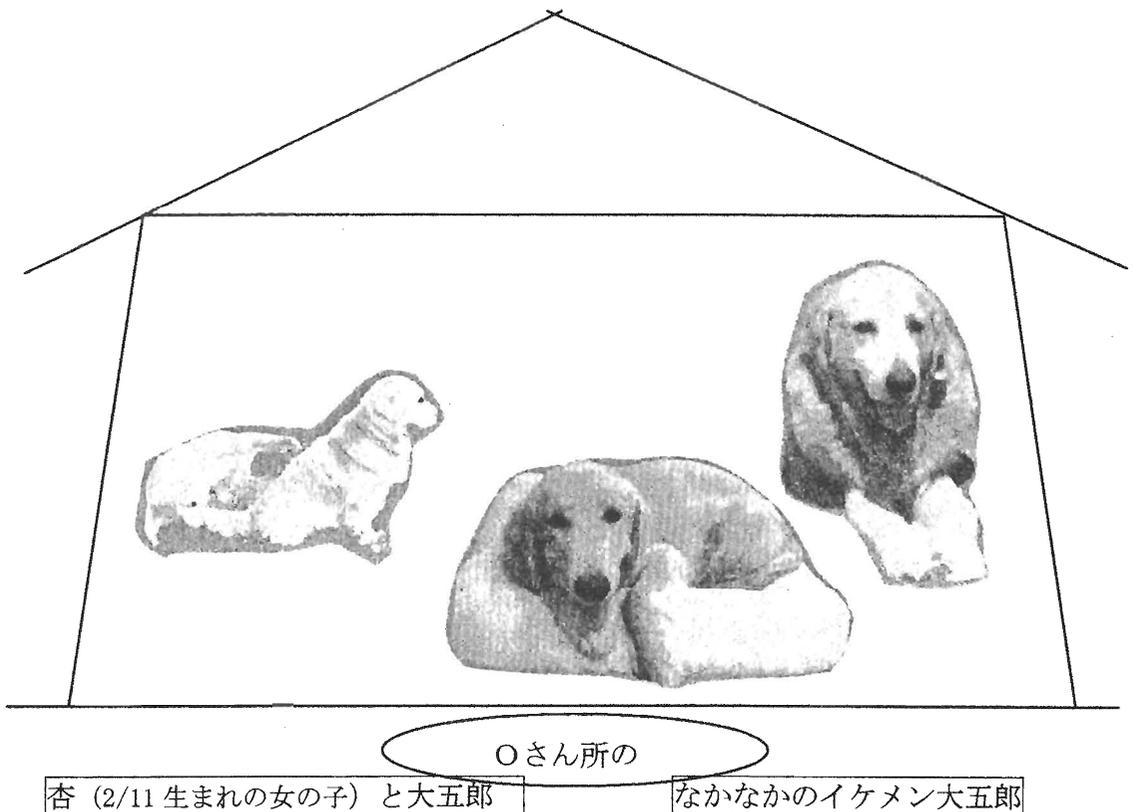
翌朝、確かに、寝覚めが違う。機械をつける煩わしさより朝の快適さが数段勝った。日中も全く眠くならないし、頭がはっきりして、以前のようなぼーとした様な感覚がなくなった。機械をつけた一日目から効果を実感した。朝の目覚めも良い。

一ヶ月後の診察日。一か月間の機械によるデータを先生が見て「効果がはっきり出ていますね。無呼吸が一時間に5、6回になっています。ほとんど正常な人と

同じです」というお話をされた。二ヶ月後、機械を使つての睡眠は正常な人と同じというデータが出た。機械と私が上手くいっているということらしい。日中の眠さや食事後のそれもなく生活レベルが高くなったと思う。

しかし、機械に頼らなくても良い睡眠がとれるようになるためには正常な体重にならなければならない。人によって適正体重は違うが、私の場合は、今より10キロは確実におとす必要がある。血圧、無呼吸、日中の眠気、朝の体のだるさの原因が全て体重オーバー原因での赤信号だったということを確認し、元気な高齢者になるために、生活レベルの向上を目指したい。まずは、ダイエット。

(M. T)



## 幸 ですか

「あなたは 幸 ですか」と問われたら「はい 幸 です」と答えます。

夫を亡くして泣き暮し、一年も経たないのに「ボーイフレンドでも出来たの」いえいえ、そんなに胸がトキメク年ではありません。「海外旅行に行けたの」いえいえ、足が痛くて長道は歩けません。それなら痴呆でない？

3月11日、東日本大震災をテレビや新聞で視聴したとたん、私の頭の中から夫との思い出が、ぱたっと止まり災害を受けた方々へと移った。

大津波の中を助けを求めながら流されいく哀れさ、車はぶかぶかと浮きその中にいた人はどんな気持ちだったろう。家まで持ち上げ、あちらこちらへ押しやる津波の力。自然からくだされる力を私達人間は、何のほどこしようもない悲しさ。

亡くなられた方が15,000人、今だに見つからない方が何千人、被害に遭わなかった私達は、テレビの前で涙を流したり、義援金を差し出すぐらいの考えしか出来ないのがもどかしい。

あまりにも凄い爪痕は、いつになったら復旧復興が出来るのだろう。自衛隊も警察もボランティアも頑張っているのに、政府の動きがあまりにも遅いと思う。

その頃、夫を亡くし喪失感にめめめしていた私は病院のベットの上で医者と家族に看守られて天国へ行った事は、幸せな最期と思える様になった。家にいて一人で悲しむよりは、何か前向きに歩みたいと思っていた時、友達に誘われて教会のドアをノックして入った。そこには日曜礼拝に集まっていた百人以上の方々がにこやかに暖かく受け入れて下さった。その瞬間、私は一人ではない皆さんの輪の中に入れてもらったのだと感動の涙がこぼれた。それからは水曜と日曜に教会に通い、牧師から聖書の解説や皆さんの祈りの言葉を聞き、今迄の自分の生き方の傲慢さを反省する様になった。

今は、教会や友達から紹介された「遠藤周作」「三浦綾子」氏の小説やエッセーを読み続けている。食事もそこそこ、掃除もそこそこ、次々に数冊を読み終える楽しさ、充実感、こんな幸せな気持ちになったことはなかった。何故だろうと思った時ふっと今迄の過ぎ去った過去を振り返ってみた。

33歳の時共働きの中、半身不随の姑の世話と子育てで、読書などの時間はなかった。姑は96歳で天国へ旅立ち、その後、夫の透析に付き合うこと12年、夫も突然死という最期だったが、その後に私に与えられたものは、自由の時間の大きさである。この時間をどんなに使おうと自分の思い通りである。

今は教会へ通い、今迄の人生を反省し、弱い人や病に冒された方々を訪ね、余った時間は、本を読み続けその中から得たものを、自分の人生に生かしていければと思っている。「今が幸せです」と言える毎日です。

(Sa.K)

## 雑 感

早い梅雨明けの後、雨の多い夏が過ぎ、青々と揺れる稲の中で可憐な白い花を咲かせていたオモダカに変わり、刈入れ後の稲田の周りを縁どる朱色の曼珠沙華が秋の訪れを教えてくれています。

お彼岸の頃に必ず咲く曼珠沙華は、地面(じべた)の下に棲む人がたいた線香花火だと、金子みすずは言っています。この秋、東北ではいつもより沢山の曼珠沙華が咲いているのでしょうか。

あの日から半年、確かに仮設住宅が立ち並び、電気、ガス、水道、道路、交通機関などは復旧し始めているようです。しかし人々の生活が元の状態に戻りつつある実感は有りません。それは、福島第一原発事故の収束が一向に見えてこないからです。

放射能の拡散は程度の差こそあれ東日本すべてに及んでいました。当時日本に滞在していた外国の人達の多くが東日本を離れ関西へ移り、帰国した人達も居たことは大袈裟な反応ではなかったのです。あの頃、私達は政府から、東電から、学者から、“直ちに影響はない”“飛行機に乗るのと同じ程度”“医療検査で浴びる量より少ない”等との甘い言葉を何度囁かれ続けたことでしょうか。しかも、ベクレルとかシーベルトとか私達になじみの薄い単位の数字の羅列で、どう解釈したらよいのか迷ってしまいます。因みにベクレルもシーベルトも十進法に基づく国際単位で、ベクレルとは“1秒間に1つの原子核が崩壊して放射線を放つ放射能の量が1ベクレル”であり、シーベルトとは“生体の被曝による生物学的影響の大きさ(線量当量)の単位。線量当量とは吸収線量(放射線から受けるエネルギー)に、法令で定められた係数(放射線の種類毎に定められた人体の障害の受けやすさ)を掛けたもの”だそうです。言葉の意味が判ってもどう判断すれば良いのか。私達は、子供たちが安全に生活できる環境なのか否か、安心して妊娠・出産ができるのか否か、それが知りたいのです。

政府も東電も学者も私達に判るように事実を説明して欲しいと思います。大気、河川、海洋がどの程度汚染されているのか？食品は、例えば個々の野菜、肉、魚介類、穀類の夫々は基準値以下だとして、それらを同時に調理して日々食しても大丈夫なのか？地震、津波による瓦礫の処理を東日本以外に依頼する場合の安全基準はどうなっているのか？汚染瓦礫はいかに処分する方針なのか？そのような疑問、不安が払拭されない限り、東日本を応援したいと思いつつも、京都五山の送り火での岩手県陸前高田市の被災松使用中止や愛知県の花火大会において福島市川俣町で製造された花火の使用中止などという双方にとって気まずい行き違いが今後も懸念されます。

当初から疑われていたメルtdown(核燃料が圧力容器内で融ける)が現実のものになり、今ではメルトスルー(核燃料が圧力容器の底を貫通し、格納容器に落ちる)どころか

メルトアウト（核燃料が格納容器をも突き破り建屋のコンクリートを破壊し外部へ浸透。地下水や海へ。）さえ疑われています。事実なら本当に恐ろしいことです。

今、除染が緊急課題として大きな問題になっています。生活圏の土壌を剥ぎ取る、建物などを水洗いする、森の枯葉を集める、様々に言われていますが、それは放射性物質を移動させるだけで最終的な処分にはならないのです。焼却灰にも、下水処理汚泥にも放射性物質は残り、半減期を繰り返して消えてくれるまで数十年から長いものは数千年もかかるのです。そして、残念なことに現在の日本に最終処分の場所も技術も確立されてはいません。

1950年代敗戦から未だ日の浅いころアメリカで旧ソ連との水爆開発合戦の中、アイゼンハワー大統領によって核の平和利用が国連で提案されました。日本は史上初めての核被爆国です。その日本が平和利用としての原発を受け入れれば、それは核の平和利用にとって大変なシンボルとなることは間違いありません。アメリカと、アメリカを訪れ原発を持たねば日本は衰退すると思い込んだ中曽根康弘元総理と原発推進派であった正力松太郎が力を入れ、日本を巻き込むための様々な催しが開催されました。子供の頃、広島市での原子力平和利用博覧会で見た、巨大な原子核の模型、マジックハンドの実演、ガイガーカウンターの警告音など、子供心にも“文明”を感じさせるものとして鮮明に記憶しています。

その一方当時吉田内閣は原発導入には慎重な姿勢であったようですが、過半数に満たない議席数で予算を通すために、中曽根氏の属する改進黨に協力を仰ぐこととなり、原発予算 2 億 5000 万円まで盛り込まれることになってしまったと言います。予算は付いたものの当時の日本には原発そのものをいかにして建設するか技術的知識は十分なものではありませんでした。原子力委員であったノーベル賞受賞の理論物理学者湯川秀樹氏も正力氏の強引なやり方に不信を募らせ辞任。当初、電力会社もあまり乗り気ではなかったようですが、財閥解体で弱体化した財閥系の商社らが商機ととらえ、米 GE 社とターンキー契約方式(設計、施工全行程を GE 社が請負、納品後キーを回せば即使用可)にこぎつけます。経済性を最優先し地震に脆弱とされる小型のマーク 1(米国では地震の多い西海岸には設置されていません)という原子炉にしたこと、せつかく海拔 35m あった台地を冷却水汲み上げポンプの能力不足から海拔 10m にまで削ってしまったこと、二つの外部電源を同じ階に設置してしまったこと、そして何より日本が地震列島であることから目を逸らし古文書など先人の教えを蔑ろにしたことで、今回の巨大人災へのカウントダウンが始まりました。

今、私達は原発事故という嘗てない甚大な人災を経験し、原発の恐ろしさを、身を以て体感しています。しかし、原発は事故を起こさず無事耐用年数を経過したとしても大変な“厄介者”になる怪物なのです。最終処分の方法が未だに確立されていないのですから。

1963 年日本で初めて原子力発電に成功した、現在の日本原子力研究開発機構の動力試験炉は 1976 年に運転を停止し、超小型の試験炉でしたが 20 年という歳月と 230 億円もかけて廃炉を完了しました。廃炉にするには費用も時間も建設時の倍以上かかるのです。しか

も、廃炉から出た放射性廃棄物 3770 t はすべて敷地内に一時保管されている状態です。最終処分地は候補地すら決まっています。廃炉が決まっている福島第一原発を始め、次々に寿命を迎える日本国中の 54 基の原発。ぞっとします。

この夏の節電でヒートアイランド現象が減少したそうです。原発停止による発電量を、火力発電を初めとする代替発電に頼るのではなく電力に依存する都市型志向こそを見直す努力をするべき時が来たように思えます。

“収容所群島”で知られる作家、ソルジェニー・ツイン氏はその土地の文化を何より大事にすべきと追放から解放された後、各地で訴えました。

日本画家、堀文子さんは、人間は自然を取捨選択して残す、だから現存する風景はそこに住む人の思想であると言います。

京都の大原に住み、ハーブガーデンで知られる、イギリス人女性ベニシアさんは 日常の面倒なことから逃げると心地良さは得られないと言います。

そんな言葉に出会ったとき、以前テレビで見た、“仙台市長喜城の屋敷林イグネ”、“薩摩川内市入来の武家屋敷”、“神石高原町の神と共に生きる”、で感じた穏やかで心地良い暮らしぶりを思い出しました。そこに暮らす人たちは地域との繋がりを何より大切に先祖代々大家族で暮らしています。その地の文化を大切に守り、大切な自然を残し、そして何より私達にとって時に面倒な血縁、地縁の人達との繋がりを大切に生きています。人間が自然の一部であることを当たり前として受け入れている鮮やかな生き方でした。

昨日、宮崎県、椎葉村の焼畑農業を続けている女性のことを扱った番組を観ました。山を 30 か所に区分し、毎年一か所焼畑にします。木々の樹液の流れの音を聴き、雲の流れを見て、青鳩の鳴き声を聞いて山を焼く日を決めるのです。そうしないと、木々は再生せず、山火事になる恐れもあると言います。“おばあ”が焼畑を決めた日、集落総出で手伝います。私の住む綾でも 2 月に畔焼きは行われますが、連絡の都合上、雲の流れ、鳥の鳴き声はお構いなしで日程が早々と決められ回覧されます。綾の畔焼きは一つの“行事”になってしまっているようです。

そんな綾ですが 9 月 11 日に行われた四枝地区の十五夜祭は我が家が属する西四枝が当番でしたが、夫たちが綱引きの縄を縋い、大根葉、里芋、薩摩芋、などすべて集落の方の収穫物でお祝いしました。

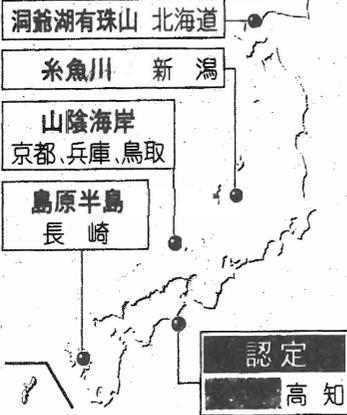
来年にもオリオン座のベテルギウスの寿命が尽き、超新星爆発をされると言われています。私が見つかる事の出来る数少ない星座の形が変わってしまうのです。今年の冬はオリオン座を目に焼き付けておこうと思っています。

大五郎と杏は毎日毎日飽きることなくじゃれあっています。時には大喧嘩!と心配させられますが庭に出るのも家に帰って来るのもいつも一緒。心配無用の様です。人間同士も利害にとらわれず協調したいものです。 (K.O.)

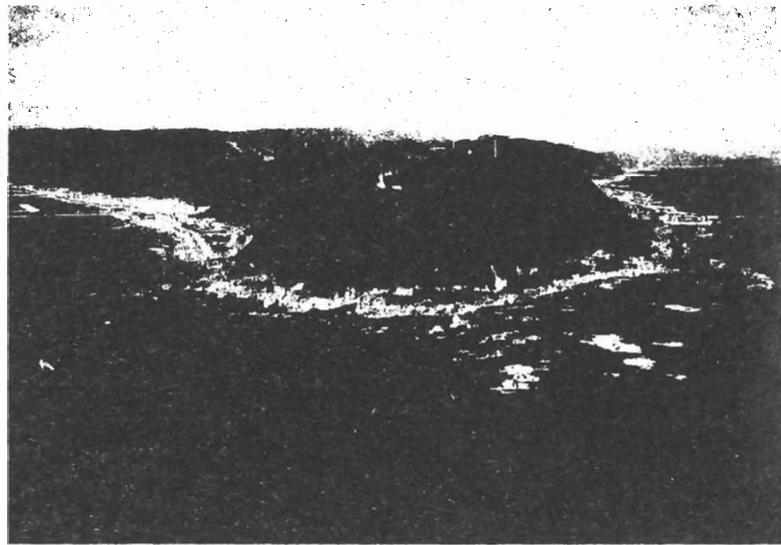
# 室戸は「大地の公園」

国内5例目 世界ジオパーク認定

## 日本の世界ジオパーク



世界ジオパークネットワーク(事務局・パリ)は18日、高知県の「室戸」地域を世界的に認定すると発表し



世界ジオパークに認定された高知県の「室戸」地域 (室戸ジオパーク推進協議会提供)

に貴重な地形や地質が楽しめる「世界ジオパーク(大地の公園)」に認定すると発表し、室戸の認定は国内5地域目。国内版の日本ジオパークには、20地域が加盟している。室戸市役所には、午前3時すぎから約160人の市民らが集合。ノルウェーで開催された国際会議に出席した職員からインターネット中継を通じて連絡を受けると、「やっ

た。室戸の認定は国内5地域目。国内版の日本ジオパークには、20地域が加盟している。室戸市役所には、午前3時すぎから約160人の市民らが集合。ノルウェーで開催された国際会議に出席した職員からインターネット中継を通じて連絡を受けると、「やっ

た。室戸の認定は国内5地域目。国内版の日本ジオパークには、20地域が加盟している。室戸市役所には、午前3時すぎから約160人の市民らが集合。ノルウェーで開催された国際会議に出席した職員からインターネット中継を通じて連絡を受けると、「やっ

せた。

会議に出席した室戸市の小松幹待市長は認定後「今はただ感激している。市民の皆さまの大きな応援のおかげであり感謝したい」と電話であいさつした。

世界ジオパークは、同ネットワークが地形や地質に教育・観光面の設備などを加味して認定。室戸ジオパークは、過去のプレート運動や大地震で隆起した海岸を中心に、捕鯨や炭焼きといった伝統文化が特徴とされる。

日本ジオパーク委員会は本年度の国内申請地として、島根県の「隠岐」を選出している。

## 10月例会のお知らせ

10月12日(水) (内容は未定9/28に決めます)

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com